

# 經濟論叢

第137卷 第3号

## 平田清明教授記念號

---

献 辞	池 上 惇	
マルクス管見	菱 山 泉	1
比較経済学序説	伊 東 光 晴	12
現代資本主義と経済政策の課題	清 水 嘉 治	33
マルクスのインダストリ論	山 田 鋭 夫	54
スミス世界史像の再検討にむけて	野 沢 敏 治	71
ケネー『経済表』「原表」の マナー・フロー分析	浅 野 清	91
資本における所有・序説	八 木 紀一郎	114

平田清明 教授 略歴・著作日録

---

昭和61年3月

京 都 大 学 經 濟 學 會



平岡清明教授肖像

平田清明 教授 記念論文集

## 献 辞

平田清明先生は、昨年8月17日に63歳の誕生日をお迎えになり、今年3月31日をもって本学を退官されることになりました。

先生は、昭和22年に東京商科大学を卒業されて以来、横浜国立大学、埼玉大学、そして名古屋大学で研究活動を続けられ、本学には昭和53年にご赴任いただきました。

戦後の激変の中でご研究を開始された先生は、歴史認識と体制認識を求めてフランス古典経済学の研究に沈潜され、その成果を大著『経済科学の創造』（1965年）で世に問われました。その後、先生はご研究の対象をマルクスの『経済学批判要綱』やフランス語版『資本論』に移され、従来のマルクス経済学において失なわれていた基礎範疇を再生させる数々のご論文を公表され、『経済学と歴史認識』（1971年）にまとめられました。さらに、本学で経済原論の講義を担当されてからは、講義と並行して、『資本論』のコンメンタールを『経済セミナー』誌上に連載されるという責務を自らに課され、4年にわたって続けられたその成果は今は4冊の『コンメンタール「資本」』（1980-83年）として公刊され学会の注目を集めております。

ケネー「経済表」の謎にとりくむなかで先生が確認されたのは、経済学は“リュマニテの科学”そのものである、という到達点でした。現代経済社会の多くの問題について、また社会主義の模索についての先生のご発言が、多くの読者を得たのも、それが先生の“リュマニテの科学”に裏付けられたものであったからでありましょう。

本学の行政面においても、先生は評議員、学部長の重責を担われました。とくに、しばしば健康を害されながらも2年余のあいだ学部長を勤められ、学部の拡充改組を熱意をこめて推進された先生のご労苦にたいしまして、心から御礼を申し上げます。

京都大学経済学会は、先生の学恩に報いるべくこの『経済論叢』を記念号として編集いたしました。先生のご友人の方々、そして先生のご指導を受けられた研究者の労作を集めた一冊を先生に捧げることが出来ますのは、わたくしども一同のこのうえない喜びであります。

先生には、今後とも、ますますご清祥におすごしになり、あらたな研究のご進展をもってわたくしどもをご啓発いただけることを願っております。

1986年2月20日

京都大学経済学部長 池 上 惇